

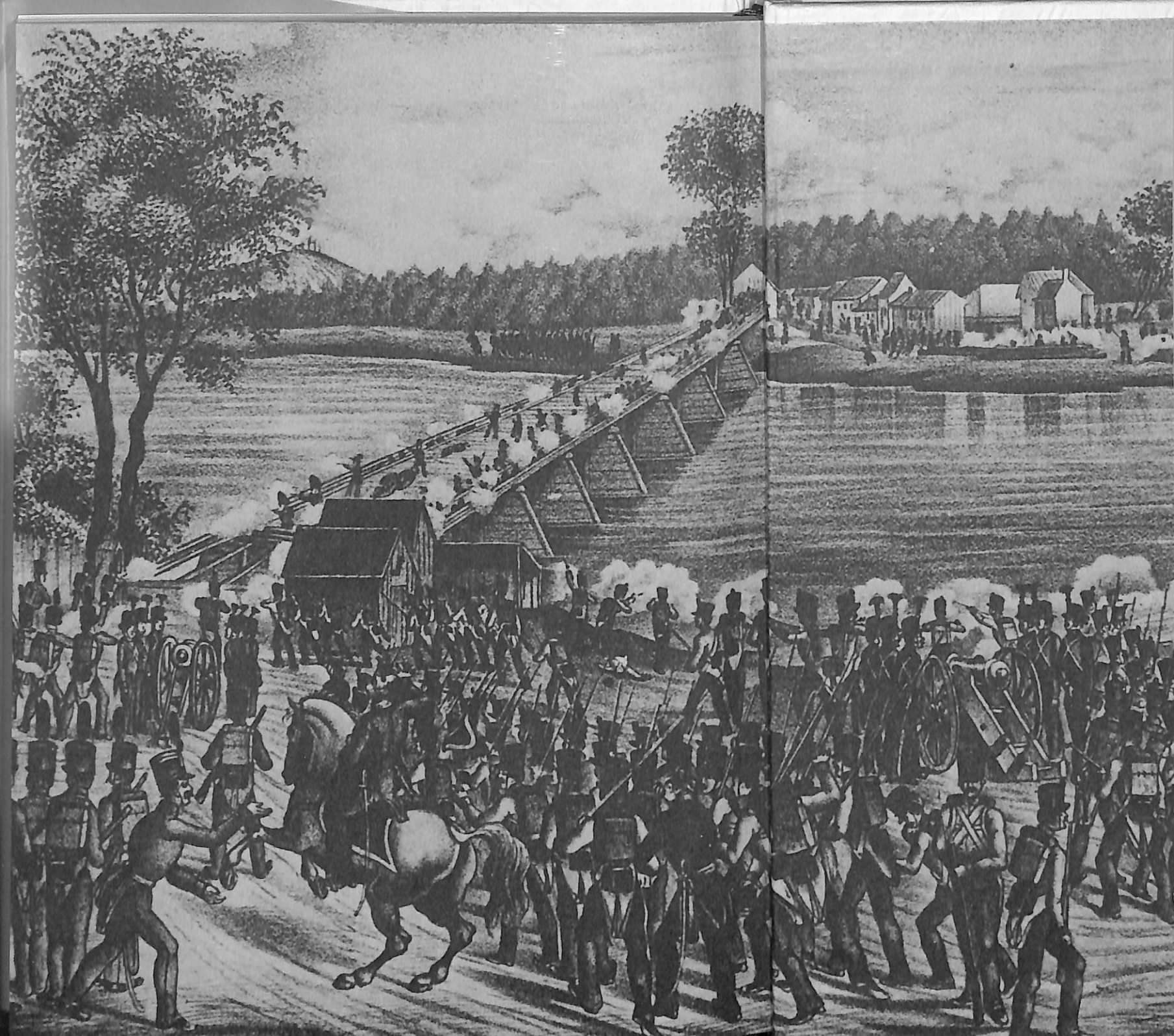
1848年の社会史

ウィーンをめぐって

良知 力



影書房



ピラを配る若い女性。「ハンガリーから三十艘の蒸気船!!!」という文字が読みとれる。(”1848, Protokolle einer Revolution, Verlag Jugend und Volk, Wien/München 1968“ 所収)

234.6
49

1848年の社会史

ウィーンをめぐる

良知 力



影書房

寄贈受

006290822

ら三十艘の蒸気
848, Protokolle
und Volk. Wien/

MOTO



1848年10月28日 ザンクト・マルクス・リーニエの襲撃

ら三十艘の蒸気
848, Protokolle
nd Volk. Wien/

一八四八年の社会史
目次



ら三十艘の蒸気
848, Protokolle
nd Volk. Wien/

MOTO



ら三十樓の蒸気
348, Protokolle
nd Volk, Wien/

MOTO

I 一八四八年の民衆

地域と民衆——ウィーンの場合…………… 7
革命期における民衆像…………… 33

II ウィーン・一八四八年

革命とマスコミ…………… 53
武装せる「プロレタリア」——ウィーン国民軍史によせて…………… 79

III 一八四八年の女性

女性史断章…………… 129
一八四八年・ウィーン・女…………… 144

IV 革命史研究の周辺

私の描く革命史…………… 157
一八四八年ウィーン雑記…………… 161
貨幣の表情…………… 166
革命史における言葉の虚像…………… 170
ウィーン文化の歴史的風土…………… 198
ドナウの水浴…………… 204
カニパリズム雑考…………… 207
『古代美術史』雑録…………… 211
若きヴェルテルの喜び…………… 219
初出一覧…………… 223

すという筋立てである。背景はシュトラースブルク、子殺しばかりか、妊娠を秘匿しても死刑になるという数世紀来の野蛮な刑罰がここにあった。著者ヴァーグナーはメルシエの訳者でもあるから、当然この作品も「社会的ドラマ」として打ち出される。そういう意味でいうと、ニコライのヴェルテルもいわば人倫のドラマである。だが、ゲーテのヴェルテルにとっては、想いをかける相手が人妻であるろうと、あるいは自殺によって神の摂理にそむこうと、それは悲劇の運命性をいよいよ色濃くするだけのことで、この場合社会も人倫も作品を支えるモティーフではない。「社会」を振りすることによって、むしろ世のしがらみが背景のなかに淡く浮きあがってくる。恋をたち切ることで恋がむしろ普遍化する。時間の流れを停めてグレイチェンの永遠のモティーフが浮かんでくるのである。

だれの心にもゲーテのヴェルテルは棲んでいる。さりとてニコライのヴェルテルのように暮すのもわるくはない。歴史を切断することで歴史を描くのも、歴史にとっぶりつかるなかで歴史を眺めるのも、どちらがどうかよくわからないが、歴史研究にもゲーテとニコライの二人のヴェルテルがいるのではないか。なんだって！ ロッテが美人の方がいいだって？！ 同じ美人でも、不倫の想いにやつれて窓辺に佇む破滅型ロッテと、まるまると肥って八人の子を育てる健康美のロッテと、どちらを選ぶかそれはあなたの好みの問題である。

初出一覧

- I 地域と民衆（原題「一八四八年革命における地域と民衆」）
 -「歴史学研究 別冊特集・地域と民衆」一九八一年
 - 革命期における民衆像（原題「一八四八年革命期における民衆像」）
 -ワイマル友の会「研究報告」7 一九八二年
- II 革命とマスコミ
 -「月刊エディター・本と批評」75号 一九八一年一月
 - 武装せる「プロレタリア」（原題「武装せるプロレタリア」）.....「思想」79号 一九八四年五月
- III 女性史断章（原題「四八年革命期の女性史断章」）
 -「創文」一九八〇年五月
 - 一八四八年・ウィーン・女..... 一九七九年五、六、七月
- IV 私を描く革命史（原題「ウィーンと革命史」）
 -「図書新聞」一九七六年六月十九日
 - 一八四八年ウィーン雑記.....「日本読書新聞」一九七九年四月二日
 - 貨幣の表情（原題なし）.....「思想」78号 一九八三年六月
 - 革命史における言葉の虚像（原題「革命史における言葉の虚像について」）.....「思想」695号 一九八二年五月
 - ウィーン文化の歴史的風土.....「思想」695号 一九八二年五月
-「週刊朝日百科」世界の食べもの——オーストリア——一九八二年七月二十六日
- ドナウの水浴.....「社会史研究」1 一九八二年十月
- カニバリズム雑考..... 2 一九八三年五月
- 『古代美術史』雑録..... 3 一九八三年十一月
- 若きヴェルテルの喜び..... 4 一九八四年四月

良知 力(らち ちから)

1930年生。東京商科大学卒業。前・一橋大学社会学部教授。専攻、社会思想史。著書『ドイツ社会思想史研究』(未来社)、『初期マルクス試論』(未来社)、『マルクスと批判者群像』(平凡社)、『向う岸からの世界史』(未来社)、『青きドナウの乱痴気』(平凡社)、編著に『資料ドイツ初期社会主義——義人同盟とヘーゲル左派』(平凡社)、『共同研究1848年』(大月書店)など。

1985年10月20日没。

一八四八年の社会史
——ウィーンをめぐる——

一九八六年二月一〇日 初版第一刷

著者 良知 力

発行所 株式会社 影書房

発行者 松本昌次

東京都豊島区駒込一―三四―二

ヒルクレスト駒込九〇九号

電話〇三―九四六―三六一―二

振替東京七―八五〇七八

装丁 松本進介

本文印刷 新栄堂

装本印刷 形成社

製本 今泉誠文社

©1986 Kunie Raichi

落丁・乱丁本はおとりかえします。

定価 二、二〇〇円